

美容医療の 基礎知識

美容医療の現状といわゆる エステサロンと美容医療の違い



青木 律 Aoki Ritsu 医師 公益社団法人日本美容医療協会 理事長

美容医療とは？

皆さんは医療というと病気やケガを治すことだと思っておられるのではないのでしょうか。もちろん病気を治療することは医療の中核部分ではありますが、現在では医学が進歩して病気を予防したり、健康寿命を延ばしたりすることも医療の大きな役割です。健康診断や人間ドック、いろいろな病気に備えたワクチン接種、禁煙補助薬や発毛促進薬など。このように医学の力をもって私たちの健康や美を増進することも医療の大切な分野なのです。

美容医療とは私たちの生活の質(Quality of Life)を向上させるために医学の知識と技術を利用して、私たちの姿かたちを美しくする医療分野のことです。

見た目を変えることに意味はある？

医学というのはヒトの生命を守るためにあるのであって、見た目をよくすることに注力するのは不適切である、と考える人もいるかもしれませんが。しかし、外観はパートナーの選択や種の存続にとってとても大切な情報であり、見た目を改善したいと努力するのはヒト以外の生物にもみられる普遍的な行動なのです。

例えば、私たちはトマトを買う時、赤くて丸々としたトマトを好み、青くてゴツゴツしたトマトを敬遠すると思います。トマトが赤いということは光合成を十分に行って糖度が高い(糖というエネルギー源がある)ということ、また太陽の光を浴びつつ紫外線による酸化を防ぐ

ためにビタミンCやリコピンという抗酸化物質(抗老化物質)をたくさん作っているということです。ですから青いトマトより赤いトマトを選ぶのです。私たちは自分の身体に必要な成分を摂取するために必要な情報を、モノの「外観」から得ていることとなります。

このようなことはヒトの外観にも当てはまります。一般的に病的な皮膚、例えば湿疹やニキビがある皮膚は美しいとは認識されません。しかしこれを治療して健康的な皮膚になれば、病気を治すこと=きれいになること、になります。すなわち健康な外観を持っているヒトは見た目もきれいということですし、きれいな外観は病気がなくて健康であると認識されやすいということです。内臓の病気がある人は皮膚も不健康になりますし、長期間紫外線に暴露した皮膚からは皮膚がんができることもあります。その前にシミができてその皮膚が光老化していることを示します。

外観を美しくするということは病気を隠すことを意味するのではなく、健康に留意して積極的に努力していることを意味します。ですので外観を改善することによって積極的に社会で活躍できるようになる人もいますし、人生を切り拓いて困難や苦境から脱することができる人もいます。このように外観の改善は、ヒトがより充実して幸せな人生を歩むためにも必要なことなのです。美容医療はそのような希望を叶えるためのお手伝いをすることができます。

美容医療で扱う領域

最も早く私たちの外観を医学的に治療するようになったのは、形成外科の領域です。形成外科というのは病的な外観を外科的な手段によって改善する診療科のことで、生まれつきの変形や、ケガや手術で失った組織を再建するのが形成外科の仕事です。しかし病的な外観と正常な外観との境目ははっきりしないことも多く、形成外科の技術を用いて正常な外観をより美しくすることもできます。これが美容外科です。美容外科は形成外科から誕生した一分野でありませんが、今では独立した1つの診療科として正式に認められた^{ひょうぼう}標榜科です。

よく誤解されがちな言葉として整形外科とか美容整形という言葉があります。整形外科とは骨や筋肉などの運動器を治療する診療科で美容とはまったく関係ありません。美容外科がアメリカで誕生し、これをわが国で初期に始められた医師の中に美容整形外科という言葉を使用したことがいまだに残っているのですが、これは正しくはありません。正式には美容外科と呼びます。ただ漢字の意味として整形が形を整えると書き、まさに美容外科あるいは形成外科の診療内容を表しているので混乱しやすいとは思いますが、当協会では機会あるごとにマスコミに美容整形という言葉の使用中止を申し入れておりますが、いまだ改善されておられません。

また昨今では手術だけでなくレーザーなどの機器や薬剤を用いて美しくなることが可能になったために、美容医療は手術をメインとする美容外科だけでなく、美容皮膚科や美容内科の分野も誕生し発展しています。これらすべてを含めて美容医療と呼びます。

美容医療の現状と問題点

美容医療は、現在ではある程度社会的に認知され承認されてきていると思いますが、一方で

悪徳な施設や^{まれ}稀に医療事故があるので不安に思われる人も多いと思います。その原因の1つは、美容医療は基本的に健康保険の適応がない自由診療であることです。通常の医療は健康保険の枠組みの中で行われますので医療費は全国統一ですし、使われる薬剤や医療行為も厚生労働省の承認があり、その治療方法はすべて学会でのコンセンサスが得られたものばかりです。一方自由診療の分野では、国内で未承認の治療法や機器を、医師の裁量の範囲で使用することができますし価格も自由です。よく最先端の治療とか最新のレーザーなどという文言を目にしますが、最先端の医療であっても未承認の場合、安全性や有効性が確認されたものではないということにご注意ください。

また消費者(患者)としては価格が少しでも安い所がよいでしょうが、価格が相場より安いということは何か理由があるはずです。例えばボツリヌス菌毒素製剤(商品名ボトックス)やヒアルロン酸製剤にはわが国の承認を得ている正式な製剤があります。一方、海外で生産された類似の薬品を医師が個人輸入して使用していることがあります。これらをジェネリック薬剤と称している所もあるようですが、これは大きな誤りです。ジェネリック薬剤というのは特許が切れた薬剤と同一の有効成分が使われていますが、並行輸入のボツリヌス菌毒素製剤やヒアルロン酸製剤は承認品と同一成分ではありません。

また、レーザーや光治療器などでも国内承認品とそうでないものがあります。国内で正式に承認された美容機器や医薬品の数はまだ多くはなく、すべての美容医療を承認品だけで行うことはできません。しかし国内で承認されたものが存在する治療法の場合は、ぜひ承認されたものを選択してください。現在、国内未承認医薬品等を用いた治療法をウェブサイトに記載する際には、当該治療法が未承認である旨を記載することが義務づけられています。その際、同等の

国内承認品があれば、それについても記載することになっていきますので、ぜひその部分をチェックしてみてください。

原因の2つ目は、現在、日本の大学でどこにも正規の美容外科学講座が開設されていないということです。ですから美容医療を志す医師がきちんとした美容医療の教育を受けていない場合があるのです。そのため当協会では、美容医療を受けたい人に対して、医療機関を選ぶ際には口コミや治療費で選ぶのではなく、担当医がどのようなトレーニングを受けてきたのかに注意していただくようにしています。具体的には、基本診療科である形成外科や皮膚科で基本的なトレーニングを積んだ後に美容医療の経験を重ねた医師のいる施設をお勧めしています。

美容医療とエステサロンの違い

見た目をきれいにする施設としては美容医療クリニックのほかに、いわゆるエステサロンがあります。エステサロンは医療機関ではありませんので、そこに医師はいません。医療行為はできませんので、医薬品を使用した治療や医療機器を使用することはありません。具体的にはケミカルピーリングや脱毛(レーザー以外のいかなる方法であれ毛根を破壊すること)は医療行為に該当しますので、医療機関以外で行うことができません。これは厚生労働省からの通知で明言されています。しかし世間には脱毛サロンと称して脱毛を行っているエステサロンがあります。これは医療脱毛とはまったくの別物で、ムダ毛の一時的な処理を行っているに過ぎません(もし医療行為と同じ、いわゆる永久脱毛を行っているエステサロンがあるとすれば違法です)。また近年、ハイフ(HIFU)という美容機器を使用しているエステサロンがあるようです。ハイフに関してはまだ厚生労働省から医療機器であるのか否かについての正式な判断が下されていませんが(2023年10月末時点)、エステ

ロンにおけるハイフによる事故が多数報告されており、消費者庁からも注意喚起がなされています。当協会では医療機関以外でハイフの施術を受けることは推奨していません。

一方、美容医療機関の治療行為は科学的に効果がある方法ですが、医師の知識と経験、技術をもって行わないと副作用や健康被害のリスクがある行為です。また治療の中には痛みや術後一定期間腫れたり赤くなったりして人前に出づらくなる期間(ダウンタイムと呼ぶ)があるものもあります。それに比べるとエステサロンでの施術は痛みや副作用が少なく、マイルドな施術ができます。ですのでこれらの施設の特徴の違いをよく念頭において、どちらを選択するか決めましょう。

少しでも安全、安心な美容医療を受けるために

医療機関を選ぶときにインターネットを利用することが多いと思いますが、インターネット上の口コミ情報、特に口コミサイト上での情報は意図的な書き込みも多いのでのみにすることは危険です。実際に診察を受けて医師から説明を受け、治療のリスクやダウンタイムについてしっかり理解したうえで治療を受けてください。また費用についても、ウェブサイトなどで公表されている値段と相違ないか確認してください。治療の決断にはある程度の時間をかけ、初診の当日中に施術や契約を強要するような施設では、はっきりと断る勇気を持つことも大切です。医師以外のカウンセラーと称する人間が診察をして治療法を決定するような医療機関は要注意です。

このようなことを書くと美容医療をお受けになるのが怖くなってしまいかもかもしれません。

今後この連載では、さまざまな美容医療について、その道の専門家が解説を行っていきますので、美容医療を受ける際の参考にしてください。